２０１６年（平成２８年）９月２０日　火曜日

東奥日報新聞　１１面　掲載

秋季県高校野球

第3日

秋季県高校野球選手権は第3日の19日、黒石運動公園、県営の2球場で準々決勝4試合を行い、ベスト4が出そろった。弘前東は鳥谷部が東奥義塾打線を2安打に抑え、10奪三振、1失点で完投。弘前東は初の東北大会出場へあと1勝に迫った。大会3連覇を目指す八学光星は主戦向井が完投し、7―2で野辺地西に勝利した。そのほか青森山田と弘前工が勝って準決勝に進んだ。準決勝2試合は大会第4日の24日に県営球場で行う。（本紙取材班）

光星×弘前東
4強 24日激突
山田高×弘前工

光星・向井 10奪三振

野辺西 左腕に苦しむ

▽準々決勝（黒石運動公園）

八学光星	2	1	1	0	0	0	1	0	2
野辺地西	0	0	0	0	0	1	0	1	0

（八）向井―齋藤
（野）太田―大向
▽二塁打　田中、潘、足立（八）太田（野）
▽打撃妨害　齋藤（八）

【評】八学光星は初回1死一、二塁の好機に田中、花房の連続適時打で2点を先制。二回に敵失絡みで1点、三回にも花房の適時打で1点を加え、流れを引き寄せ、終盤もさらにリードを広げた。先発の主戦左腕・向井は伸びのある直球を軸に2失点完投した。

左打者6人が並んだ野辺地西打線は、相手左腕の攻略に苦しんだ。10三振と大振りが目立ち、主戦太田を援護できなかった。

【八学光星―野辺地西】野辺地西打線を2点に抑え完投した八学光星の主戦向井＝黒石運動公園

エース、意地の144球

○…八学光星は主戦向井の力投が光った。前日の八工大一戦では四回途中で降板したが、この日は直球とスライダーを外角低めに集め力投。最終九回も三振を三つ奪うなど球威は衰えず、144球を投げ切った。

試合前、仲井監督から「エースの自覚を持て」と言われたことを明かし「強い気持ちで向かっていけた」と振り返った。

しかし指揮官は「簡単に先頭打者の出塁を許した」などとおかんむり。背番号1は「もっとコントロールを磨かなければ」と言い聞かせた。

【八学光星】			打	安	点	振	球
⑤	馬場	②	5	3	2	0	0
④	三枝	②	3	0	1	0	1
③	足立	②	4	1	0	1	0
⑨	田中	②	2	1	1	0	1
⑦	花房	②	3	2	2	0	1
⑧	潘	②	3	1	0	2	0
8	小池	②	1	0	0	0	0
①	向井	②	3	1	0	0	1
②	齋藤	②	2	1	0	0	0
⑥	吉田	②	3	1	0	1	0
犠盗失併残							
5	2	1	0	4	2	9	1
投手回			打安振球失				
向井		9	38	8	10	2	2

【野辺地西】			打	安	点	振	球
⑧	三上	②	3	0	0	1	0
8	我満	①	1	0	0	1	0
H	相内	②	1	0	0	1	0
⑥	大池	②	4	1	0	2	1
④	内山	②	4	3	0	1	0
②	大向	②	2	0	0	0	0
③	中野渡	②	3	2	1	0	1
⑨	館	①	3	0	1	1	0
⑦	川村	①	4	0	0	1	0
①	太田	②	4	1	0	2	0
⑤	金浜	①	3	1	0	0	0
犠盗失併残							
3	0	1	1	9	3	2	8
投手回			打安振球失				
太田		9	38	11	4	4	7

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです